

2023年7月5日(水)開発途上国ビジネスニーズセミナー(経済開発分野)
当日の質問と回答

質問	回答
<p>農業分野において、基礎情報収集を行う上で有用なデータソース(データベース等)があれば教えてください。</p>	<p>以下のようなソースが参考になると思います。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農林水産省:海外農業情報 https://www.maff.go.jp/j/kokusai/kokusei/kaigai_nogyo/ ・FAOSTAT https://www.fao.org/faostat/en/#data ・UN Comtrade https://comtradeplus.un.org/ <p>また、対象国が明確になっているのであれば、対象国の農業関係省庁のウェブサイトで政策や法規制の情報が掲載されていますし、対象国の統計局などで、農業分野のGDPなどの情報が掲載されています。また、途上国の場合は、国の中長期戦略(例:ウガンダのTHIRD NATIONAL DEVELOPMENT PLAN)や農業分野の戦略文書(例:カンボジアのFive-Year Strategic Plan 2019-2023 for Agriculture Sector)の中で、農業分野のデータを扱っていることも多いです。</p>
<p>ウガンダでは、JICAの協力対象の産業分野は農業が中心なんでしょうか。</p>	<p>産業という点では、農業以外ではICT、インフラ等などのセクターにおいても協力を行っています。</p>
<p>ウガンダの農業生産は、現状では国内向けと想像しますが、将来的な輸出向け高付加価値農産物の可能性についてお考えを聞かせてください。</p>	<p>高付加価値作物については、輸出向けの生産が既に盛んに行われています。穀物類については、コメを除いては国内自給が達成できていることもあり、周辺国への輸出を行っています。その他の作物としてはコーヒー、花卉類、ハバナロなどのペッパー類、カッシューナッツ、カカオ、バニラ、魚(ナイルパーチ)などの生産が盛んであり、中東・ヨーロッパ等に輸出しています。</p>
<p>ウガンダにおける日本人のイメージはいかがでしょう。</p>	<p>ウガンダ国内を走る自動車の多くは日本のブランドで占められており、ウガンダ人にとって日本はなじみのある国の一つとなっています。また2021年12月には、ウガンダ国会においてJICAによるこれまでの協力をたたえる決議が採択され、JICAが行ってきた長年の協力がウガンダ政府によっても認められており、総じて日本(人)は好意的にとらえられている印象です。</p>

2023年7月5日(水)開発途上国ビジネスニーズセミナー(経済開発分野)
当日の質問と回答

質問	回答
<p>ウガンダにおける電子決済／ファイナンスの普及状況はいかがでしょう。</p>	<p>都市部では電子決済の普及が進みつつありますが、肌感覚では、まだ現金決済の人の方が多いと感じます。地方部はまだこれからという印象で、電子マネーで売買をする環境は整っていない印象です。自分の財布と、電子マネーに二重にお金を持たなければいけない(電子マネーはチャージしておかなければいけない)ことに、ハードルを感じる人が多いと聞きます。ただ、地方から都市に出稼ぎに来ている人が家族に送金する際には、電子決済・電子送金(モバイルマネーの送金)が使われています。</p> <p>ファイナンスに関しても、地方はやはり普及していません。貸付先の信用情報が取れず、確実に返済されるかが分からないため、例えばファイナンスの制度があったとしても金利が非常に高く、ファイナンスが成立しないことがほとんどだと理解しています。</p>
<p>ウガンダでは電力供給に課題ありと聞いたことがあります。通信に関して問題が生じたことはありますか。</p>	<p>電力供給の課題は、頻繁な停電です。しかし、携帯電話の基地局は全てジェネレーターを備えているため、電気が来ないから携帯電話が繋がらないということはほぼ無く、通信に関して大きな課題は感じていません。ただし、携帯電話のサービスプロバイダ(日本の場合:ドコモ、au、ソフトバンク)のメンテナンスがあまり良くないため、突然動かなくなることはしばしばあります。</p>
<p>カンボジアにおいて、現地情報収集のために有益な(現地等の)新聞、雑誌等にはどのようなものがありますか。</p>	<p>現地紙(英字)はPhnom Penh Post、Khmer Times、雑誌(日本語)はNyo Nyumがあり、どれもオンライン版で閲覧可能です。</p> <p>カンボジアではFacebookが盛んで、フォロワー数18万人の農業省Facebookは翻訳機能で情報収集可能です。 https://www.facebook.com/maff.gov.kh</p>
<p>カンボジアの農業教育に関し スマホ等を活用したe-learningなどの事例はあるでしょうか(「労働の質」関係)。</p>	<p>スマホ活用の事例として「農業技術、農業資材、マーケティング情報」にアクセスできるTonle Sap Appがあります。AMK(マイクロファイナンス機関)と農業省がUSAID等の支援を受けて開発したものです。 https://play.google.com/store/apps/details?id=com.tonlesap.cambodia&gl=US</p>
<p>カンボジアにおけるグッドガバナンスの課題について以前聞いたことがありますが、近年の動向はいかがでしょう。</p>	<p>2022年の腐敗認識指数ランキングで、カンボジアは180か国中150位で、前年157位から上昇したものの未だ低水準です。他方、2020年にカンボジア日本人商工会がカンボジア政府汚職防止機構(ACU)と汚職防止に関する覚書(MOU)を締結、行政手続きにおいて不当な費用請求があった場合、会員企業は本MOUをもって拒否することができ、また、拒否したことによって行政手続きの遅滞など業務への影響があればACUに報告・解決の要請が可能になるなど、事業環境の改善に向けた動きが見られます。</p>

2023年7月5日(水)開発途上国ビジネスニーズセミナー(経済開発分野)
当日の質問と回答

質問	回答
<p>JICAカンボジア事務所の説明で、カンボジアの農業の課題としてコスト(肥料や農薬に経費が掛かる)の問題が上げられていましたが、現在この課題への具体的な取組みはありますか？また、本日報告のあったウガンダやペルーでも、同様の問題はありますか？もしあれば、課題解決への取組みについても教えてください。</p>	<p><カンボジア事務所> 淡水養殖のコスト削減のため輸入餌料だけに頼るのではなく、手近で入手可能な材料で安価かつ栄養補給できる餌料開発に取り組む日系企業さんがいらっしゃいます。 また、肥料・農薬は使った分だけ効果が出るという発想で使用過多の傾向があるため、適切な使用量に抑えてコストを削減する技術指導の余地・必要性について農業省関係者と話すことがあります。</p> <p><ウガンダ事務所> ウガンダでも農業資材(肥料や農薬など)は特に昨今価格が急騰しており課題です。ウガンダは土壌が肥沃なこともあり、肥料・農薬の使用は近隣国に比べて少量ですが、園芸作物については使用過多による残留農薬の問題も指摘されています。農業省では使用ガイドラインを設定しています。 機械化の遅れているウガンダでは農業生産投入の大半は雇人費となります。サブサハラアフリカ全体でも雇人費は上昇しているため、機械化の促進が注目されていますが、農道などのインフラ整備や機械サービスセンター、パーツ供給網の整備、ファイナンス支援など、多くの課題が残されています。</p> <p><ペルー事務所> 一般的な課題として肥料・農薬購入が経営を圧迫している事例が見られます。カンボジアと同様使用過多に起因するケースも見られます。一方で、現時点ではペルーでの肥料・農薬適正化に向けたプロジェクト実績はありません。</p>